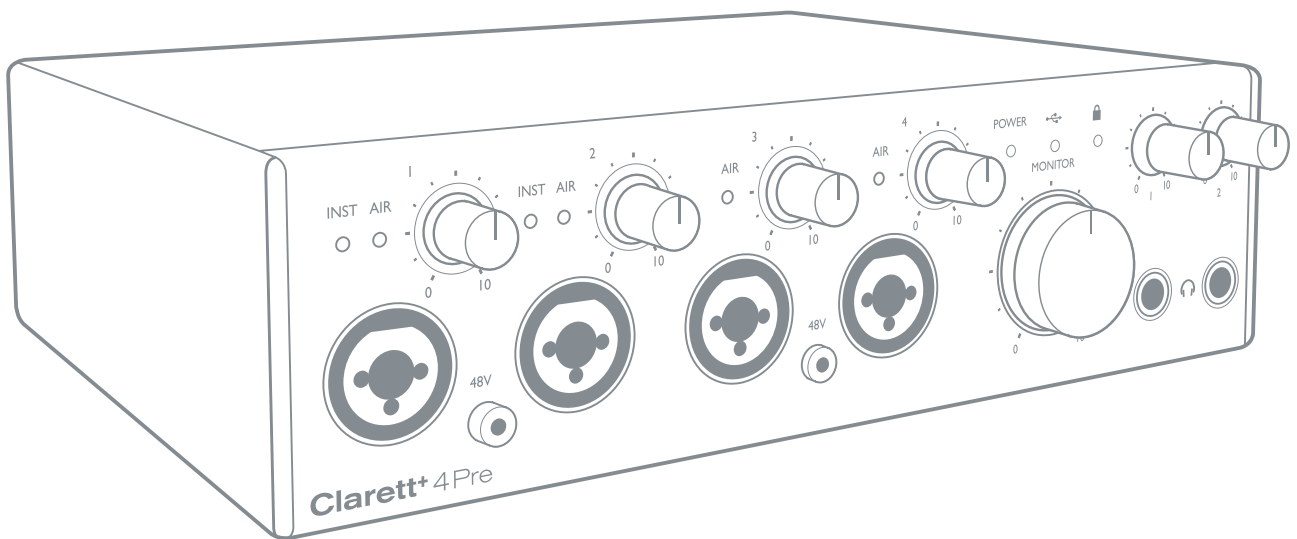


# Clarett+ 4 Pre

## ユーザーガイド



# 目次

<b>概要</b> .....	<b>3</b>
はじめに.....	3
特徴.....	4
同梱物.....	5
システム要件.....	5
<b>使用を開始する</b> .....	<b>6</b>
ソフトウェアのインストール.....	6
Clarett+ 4Preの製品登録.....	6
各部の名称と特徴.....	8
フロントパネル.....	8
リアパネル.....	9
Clarett+ 4Preを接続する.....	10
コンピュータのオーディオセットアップ.....	10
DAWでのオーディオセットアップ.....	10
Clarett+ 4Preをスピーカーに接続する.....	11
<b>使用例</b> .....	<b>13</b>
1. 小人数バンドのレコーディング.....	13
2. オプティカル接続を使用して(もしくは使用せずに)ドラムキットをレコーディングする.....	15
3. レコーディング中にモニターミックスを送信する.....	17
<b>FOCUSRITE CONTROL - 概要</b> .....	<b>18</b>
<b>CLARETT+ 4PRE技術仕様</b> .....	<b>19</b>
性能仕様.....	19
物理的特性と電気的特性.....	20
<b>トラブルシューティング</b> .....	<b>22</b>
<b>著作権表示と法定通知</b> .....	<b>22</b>

## 概要

**警告:**イヤフォンやヘッドフォンからの音圧レベルが高すぎると、聴力障害を引き起こす恐れがあります。

**警告:**本機は、USB 2.0以上、もしくはThunderbolt 3.0以上のポートにのみ接続可能です。

## はじめに

Clarett+ 4Preをご購入いただき誠にありがとうございます。本機は、WindowsおよびMac対応の高品質オーディオインターフェースで、レコーディングやミキシングにおいて最上級のサウンドを求める音楽制作者向けに開発されました。ボーカル、ドラム、生楽器のサウンドを忠実に再現するアナログモデリング機能のAirモードと、楽器を直接接続して楽器本来の音色をそのまま取り込む2系統のJFETインストゥルメント入力を備えています。

本ユーザーガイドでは、本製品の操作上の機能を十分理解していただくために、本体について詳しく説明しています。Clarett+ 4Preが持つ全ての機能を理解するため、本ガイドを最後までよくお読みいただくことを推奨します。

**重要:**本ユーザーガイドに加え、Focusrite Controlソフトウェアガイドもお読みいただくことをお勧めします。ソフトウェアガイドは、[focusrite.com/downloads](https://focusrite.com/downloads)よりダウンロードが可能です。

Focusrite Clarett+シリーズと併用するために開発されたソフトウェアアプリケーション **Focusrite Control**に関する全ての詳細が記載されています。

これらのユーザーガイドから必要な情報が得られなかった場合は、次のURLをご参照ください：

[support.focusrite.com](https://support.focusrite.com)本ガイドに記載されていない情報やチュートリアルが紹介されています。また「Getting Started」ビデオチュートリアルは次のURLより視聴できます。

[focusrite.com/get-started/ClarettPlus-4Pre](https://focusrite.com/get-started/ClarettPlus-4Pre)

## 特徴

Clarett+ 4Preオーディオインターフェースは、次世代の高性能Clarett+プリアンプを4基備えています。十分に余裕のあるヘッドルーム、低ディストーション、低ノイズのプリアンプは、すべてのニュアンスを正確に再現し、クリアでパワフルなサウンドをキャプチャーします。さらに進化した高性能なA-DおよびD-Aコンバーターにより、超低ノイズかつ高ダイナミックレンジのパフォーマンスが実現します。ミックスはよりタイトに出力され、より正確なレコーディングが可能になります。原音を忠実に再現する2系統のヘッドフォン出力は、あらゆるニュアンスをモニターでき、ボーカリストのパフォーマンスを最大限に引き出します。また、ギターアンプ入力を再現した2系統のJFETインストゥルメント入力では、ギター本来のトーンをそのまま再現します。Clarett+ 4PreはMIDIインターフェースとしても機能し、コンピュータとスタジオ内の他のMIDI機器との接続を可能にします。

Clarett+ 4Preでは最大18チャンネルを同時入力でき、一度にさまざまな楽器の録音が可能です。ADATを用いることで、Clarett+ OctoPreなど8チャンネルのデジタル拡張機器を接続でき、音楽制作におけるすべての作業において有用です。

付属のソフトウェア**Focusrite Control**を使うことで、一般的なレコーディングに適したルーティングを簡単に設定できます。また複雑なセットアップにも対応しており、詳細なルーティングおよびモニタリング構成、サンプルレートや同期などのハードウェア設定を行うことができます。**Focusrite Control**は、以下のURLからダウンロードできます：[focusrite.com/downloads](https://focusrite.com/downloads)

iPad および iPhone のユーザーの方は、[Focusrite iOS Control](https://focusrite.com/downloads)をApp Store®よりダウンロードできます。コンピュータ上で実行されている**Focusrite Control**とWiFi経由で通信することで、iOSデバイスからモニターミックスを調整できるアプリです。詳細は、**Focusrite Control**ユーザーマニュアルをご参照ください。

## 同梱物

Clarett+ 4Preには以下が付属します：

- 外部12V DC 電源ユニット (PSU)
- USB-C to USB-A ケーブル
- USB-C to USB-C ケーブル

**Focusrite Control**は、[focusrite.com/downloads](https://focusrite.com/downloads) よりダウンロードできます。Windowsで**Focusrite Control**を使用する場合は、ドライバーのインストールも必要です。Macの場合は、Clarett+ 4Preがクラスコンプライアント機器として動作するため、ドライバーのインストールは不要です。

Clarett+シリーズには、サードパーティー製ソフトウェアが付属します。

詳細については、[focusrite.com/included\\_software/ClarettPlus-4Pre](https://focusrite.com/included_software/ClarettPlus-4Pre) で確認できます。

## システム要件

**重要** – Clarett+シリーズに対応するコンピュータおよびオペレーティングシステムに関する最新情報は、以下のリンクをご参照ください。  
[support.focusrite.com](https://support.focusrite.com)

# 使用を開始する

## ソフトウェアのインストール

Clarett+ 4Preの動作に必要な**Focusrite Control**およびドライバーソフトウェアは、Focusriteのウェブサイトよりダウンロードできます：[focusrite.com/downloads](https://focusrite.com/downloads)

**Downloads**ページの機種選択メニューにある**Clarett+**シリーズからお使いの機種を選択すると、対応するダウンロード可能なすべてのファイルが表示されます。



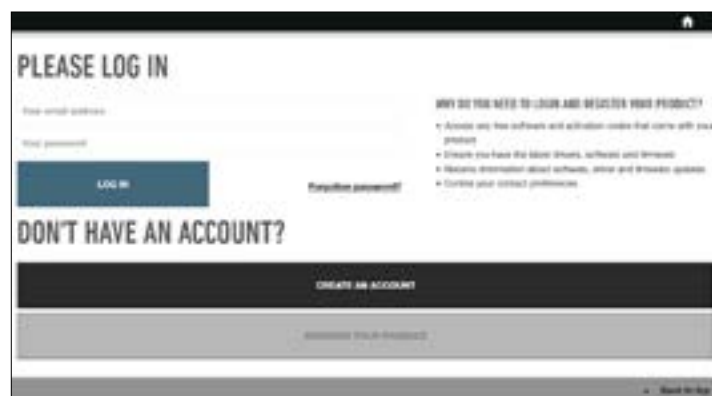
お使いの環境に対応する**Focusrite Control** をダウンロードするには、該当する**Download**ボタンをクリックします。

Windowsドライバーは、**Focusrite Control**のダウンロードファイルに含まれています。Macでお使いの場合は、ドライバーのインストールは不要です。

## Clarett+ 4Preの製品登録

以下の手順で不明な点がある場合は、こちらの動画ガイドをご覧ください。  
[focusrite.com/get-started/ClarettPlus-4Pre](https://focusrite.com/get-started/ClarettPlus-4Pre)

1. [focusrite.com/register/](https://focusrite.com/register/) にアクセスします。



2. Focusrite/Novationアカウントをお持ちでない場合は、**CREATE AN ACCOUNT**を選択し、画面の指示に従ってアカウントを作成します。

3. アカウントをお持ちの場合は、ログイン後、**REGISTER A NEW PRODUCT**を選択します。



4. **Product**ドロップダウンリストからお使いのClarett+製品を選択し、ページ下部に製品のシリアル番号を入力します。シリアル番号は、Clarett+ 4Pre本体の裏面、または製品の箱に記載されています。入力後、**Set Serial Number**をクリックします。

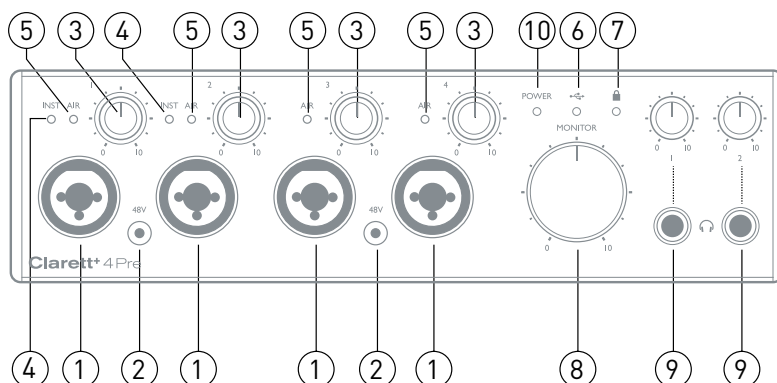
5. 画面の指示に従って製品の登録を完了してください。

6. 登録が完了すると、アカウント内の**My Hardware** タブに製品が表示されます。

7. 付属のソフトウェアは、**My Software**タブにて確認できます。

## 各部の名称と特徴

### フロントパネル

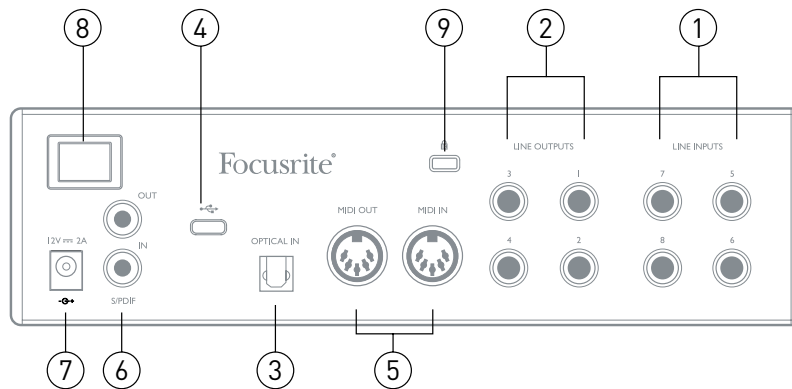


フロントパネルには、マイク、ライン、楽器信号用の両チャンネルの入力ゲインコントロールおよび入力コネクタと、モニタリングコントロールが備わっています。

1. **INPUT 1-4** – 各チャンネルに備わったコンボ XLR 入力ソケット - XLR コネクタでマイクを、あるいは1/4インチジャックでラインレベル信号を接続します。楽器 (例:ギター) も1/4インチジャックで Input 1 および 2 に接続できます。TRS (バランス) および TS (アンバランス) ジャックプラグのどちらも楽器やラインレベル信号に使用できます。
2. **48V** – マイク入力1/2/3/4のコンボコネクタにあるXLR接続部で、48Vファンタム電源を個別に有効にするスイッチ。ファンタム電源がオンのとき、各スイッチの横にあるLEDが赤色に点灯します。ファンタム電源は、すべてのマイクに必須ではありません。お使いのマイクにファンタム電源が必要か不明な場合は、マイクの取扱説明書を必ずご確認ください。
3. **ゲイン 1~4** – 4つのロータリーコントロール: Input 1から4に適用される信号の入力ゲインを調整します。ゲインコントロールにはLEDが搭載されており、信号レベルを確認することができます。緑色の点灯は、-42dBFS以上の入力レベルが検出された (つまり「信号あり」) ことを示します。信号レベルが-6dBFSに達するとオレンジ色に、0dBFSでは赤色に変化します。
4. **INST – Focusrite Control**ソフトウェア上でInput 1および2にインストゥルメントモードが選択されている際に点灯する赤色のLED。インストゥルメントモードが選択されると、ライン入力は2極 (TS) ジャックプラグによる楽器接続に適した高インピーダンス/アンバランス入力に変換されます。
5. **AIR – Focusrite Control**で各入力のAIR機能を有効にしたときに点灯する4つの黄色のLED。AIR機能は入力部の周波数特性を変更し、トランスフォーマーによる伝統的なFocusrite ISAマイクプリアンプのサウンドをエミュレートします。
6. **USBが有効** – 本体がホストコンピュータとの接続を認識すると、緑色のLEDが点灯します。
7. **ロック** – Clarett+ 4Preの内部クロックまたは外部デジタル入力信号でクロック同期が確立されると点灯する緑色のLED。
8. **MONITOR** – メインモニター出力レベルコントロール– 通常はこのノブにて、リアパネルのメインモニター出力のレベル調整を行います。**Focusrite Control**で設定することで、2系統のアナログ出力ペアのレベルを同時に調整することもできます。
9. **ヘッドフォン 1および2** – ヘッドフォンを接続するコネクタ。これらの出力に供給されるステレオミックスは、**Focusrite Control**で構成することができます。ヘッドフォン1からは、常にLINE OUTPUTS 3および4と同じミックスが出力されますが、ヘッドフォン2からは、Focusrite Controlで行ったOutput 5および6の全く別のミックスが出力されます。また、各ヘッドフォン出力に搭載されているボリュームコントロールで、個別にボリューム調整が可能です。
10. **POWER** – DC電源が接続されている場合、緑色のLEDが点灯します。



## リアパネル



- 1. LINE INPUT 5～8** – 1/4インチTRSジャックソケットで構成されるチャンネル5から8用の4つのバランスアナログライン入力。1/4インチTRS (バランス) またはTS (アンバランス) ジャックプラグを接続して、追加のラインレベル信号を入力します。
- 2. LINE OUTPUTS 1～4** – 1/4インチジャックソケットで構成される4つのバランスアナログライン出力。バランス接続にはTRSジャックを、アンバランス接続にはTSジャックを使用します。LINE OUTPUTS 1および2は、モニタリングシステムのメインL/Rスピーカーを駆動するために使用され、OUTPUTS 3および4は、追加のラインレベル機器 (例: アウトボードFXプロセッサなど) などの接続に使用されます。全ての出力にルーティングされる信号は、**Focusrite Control**で設定が可能です。
- 3. OPTICAL INPUT** – サンプルレート44.1/48 kHzで8つ、88.2/96 kHzで4つのデジタルオーディオチャンネルをADATフォーマットで伝送するTOSLINKコネクタ。176.4/192 kHzでは無効となります。オプティカルS/PDIFソースにも対応します。
- 4. USB-C™コネクタ**。付属のUSB-C to USB-CまたはUSB-C to USB-Aケーブルを使用してClarett+ 4Preをお使いのコンピュータへ接続します。
- 5. MIDI INおよびMIDI OUT** – 外部MIDI機器を接続するための標準5ピンDINソケット。コンピュータとMIDIデータをやり取りし、追加のMIDIデバイスに分配することができます。
- 6. SPDIF INおよびOUT** – Clarett+ 4Preと外部機器間において、2チャンネルのS/PDIFデジタルオーディオ信号のやり取りをするRCAソケット。他の全ての入出力と同様、S/PDIF信号のルーティングは**Focusrite Control**でカスタマイズが可能です。**Focusrite Control**内では、S/PDIF入力はInput 9および10、S/PDIF出力はOutput 7および8として表示されます。
- 7. 外部DC電源入力** – ACアダプター (PSU) を使用してClarett+ 4Preに電源を供給します。PSUは2 A定格の12V DCユニットです。
- 8. 電源オン/オフスイッチ**。
- 9. ケンジントンセキュリティスロット** – 必要に応じて、Clarett+ 4Preにセキュリティ対策を施すことができます。

## Clarett+ 4Preを接続する

Clarett+ 4Preは、付属のACアダプター (PSU) を使用して電源を供給する必要があります。PSU をリアパネルの電源ソケットに接続し、電源スイッチをオンにして本体の電源を入れます。

Clarett+ 4Preは、USB-C™ポートをリアパネルに備えます。ソフトウェアのインストールが完了したら、付属のUSB-Cケーブルを使用してClarett+ 4Preをコンピュータに接続します。

電源スイッチをオンにして、本体の電源を投入します。

### コンピュータのオーディオセットアップ

Clarett+ 4Preをコンピュータに初めて接続する際は、Clarett+ 4Preをオーディオ入力/出力機器として選択する必要があります。

- MacOS: システム環境設定 > サウンドの入力および出力タブの両方で、Focusriteデバイスを選択します。
- Windows: コントロールパネル > サウンドで Focusrite デバイスを右クリックし、「既定のデバイスとして設定」を録音および再生タブの両方で選択します。

Clarett+ 4Preをオーディオデバイスとして選択する方法は、[focusrite.com/get-started/ClarettPlus-4Pre](https://focusrite.com/get-started/ClarettPlus-4Pre)をご参照ください。

初回接続時、Clarett+ 4Preはデフォルトのオーディオデバイスとしてオペレーティングシステムに認識されます。

### DAWでのオーディオセットアップ

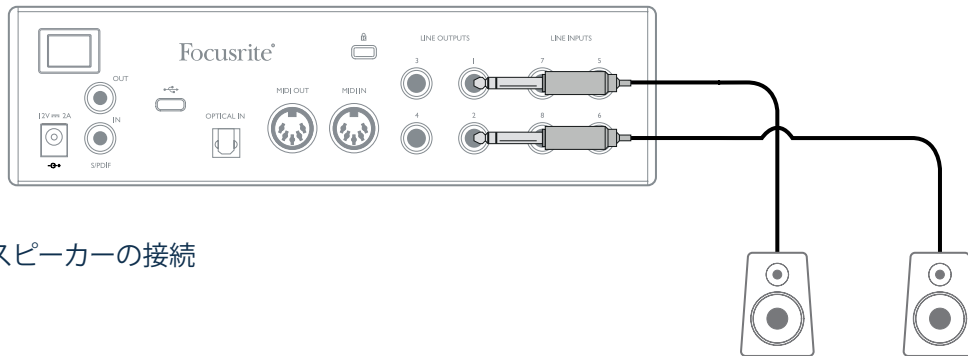
ドライバをインストールして本体を接続すると、Clarett+ 4PreがDAWで使用可能になります。

注意 - お使いのDAWによっては、Clarett+ 4PreがデフォルトのI/Oデバイスとして自動的に選択されないことがあります。この場合は、DAWのオーディオ環境設定\*画面でドライバを手動で選択する必要があります。Macの場合は**Clarett+ 4Pre USB**、Windowsの場合は**Focusrite USB ASIO**を選択してください。オーディオデバイスの設定方法に関する詳細は、お使いのDAWのマニュアル(またはヘルプファイル)をご参照ください。

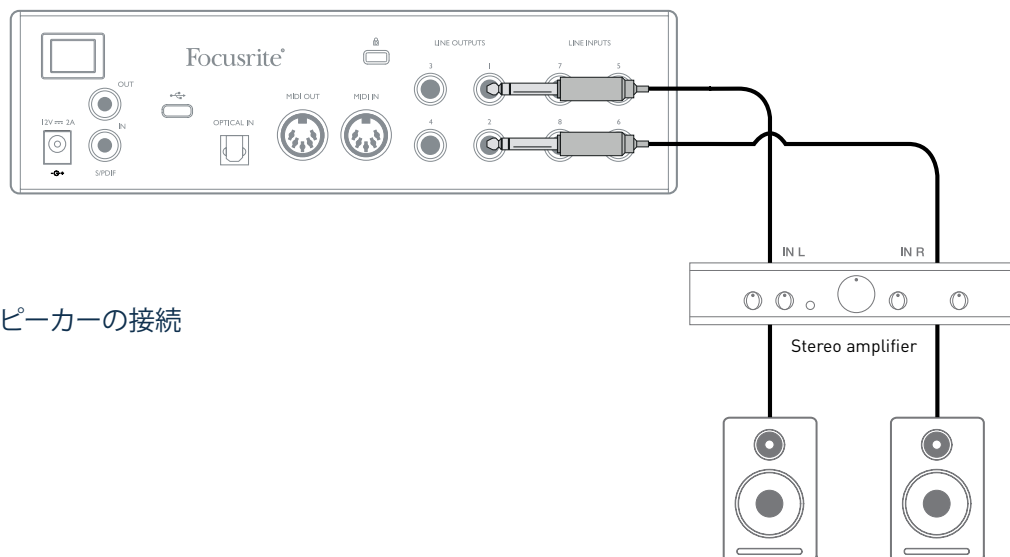
\*一般的な呼称 - DAWによって異なる場合があります

## Clarett+ 4Preをスピーカーに接続する

リアパネルの1/4インチジャック**LINE OUTPUTS 1**および**2**は、通常モニタースピーカーの出力として使用されます。アクティブモニターの場合は、アンプが内蔵されているため直接接続することが可能です。パッシブモニターの場合は、別途ステレオアンプが必要となり、この場合、本体の出力はアンプの入力部に接続してください。



アクティブスピーカーの接続

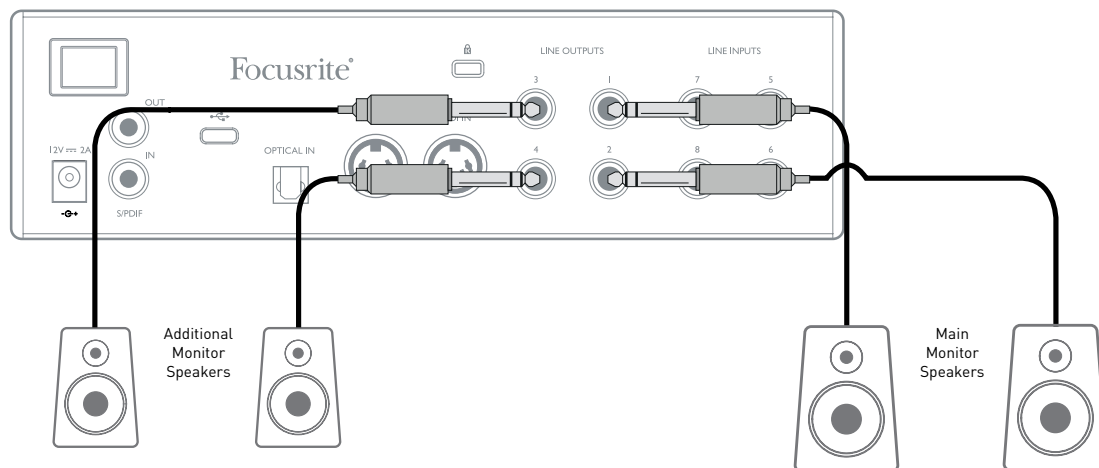


パッシブスピーカーの接続

プロフェッショナル用パワーアンプは、一般的にバランス入力を備えています。アンプまたはパワードスピーカーにバランス入力が備わっている場合、3極 (TRS) 1/4インチジャックを使用してClarett+ 4Preと接続します。

ライン出力コネクタは、全て3極 (TRS) 1/4インチジャックソケットのバランス接続です。一般的な家庭用 (Hi-Fi) アンプや小型のパワードモニターは、RCAソケットによるアンバランス入力を備えています。

ミキシングを行う際は、もう1組のスピーカーペア(ミッドフィールドやニアフィールドモニターなど)を **LINE OUTPUTS 3**および**4**に接続して、異なるタイプのスピーカーでミックスを確認することができます。また、**Focusrite Control**を使用することで、Output 1および 2の出力にも簡単にミックスをルーティングすることが可能です。



**重要:**

**LINE OUTPUTS 1** および **2**は、スピーカー保護回路を備えています。スピーカー(およびアンプ)が接続されアクティブな状態でClarett+ 4Preの電源が投入された場合でも、保護回路が機能し接続機器の損傷を防ぎます。

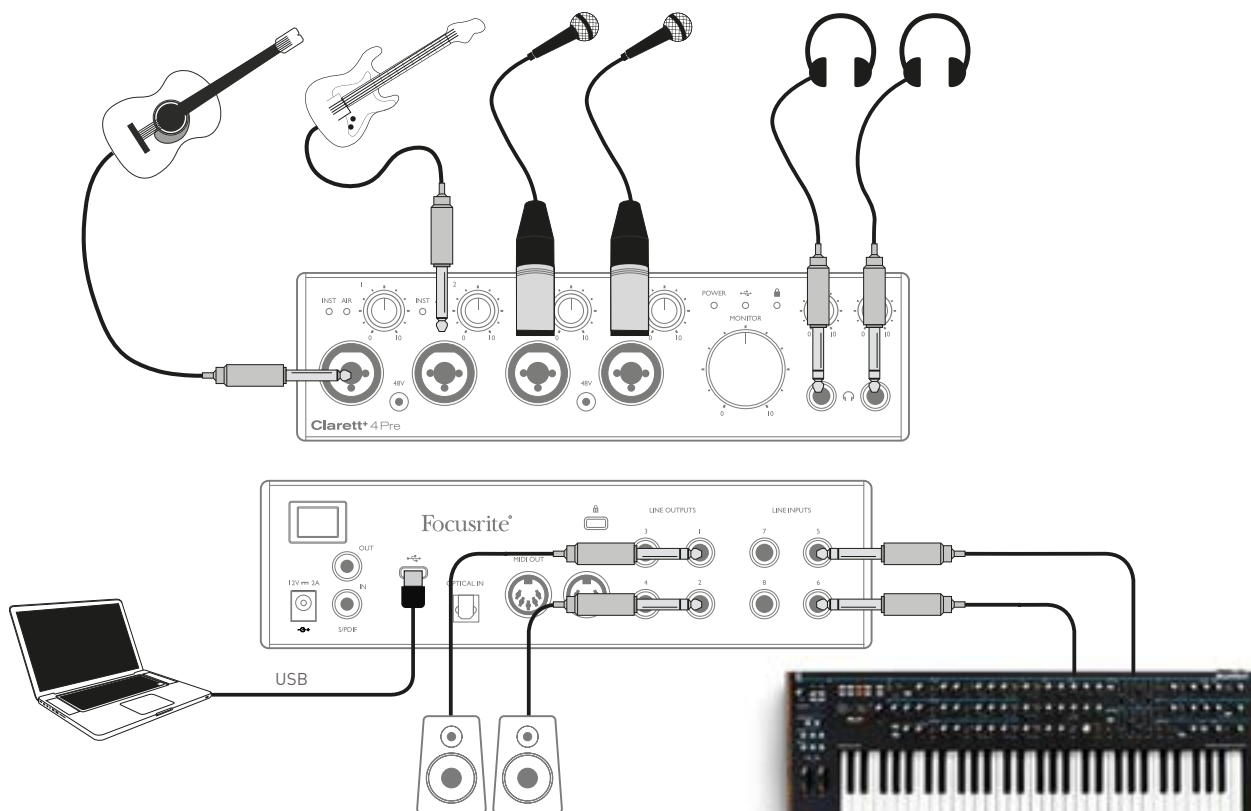
**LINE OUTPUTS 3**および**4**には、保護回路が搭載されていません。これらの出力に2組目のスピーカーを接続する場合は、最初にClarett+ 4Preの電源を投入してから、スピーカー(またはアンプ)の電源を投入してください。

いかなる環境においても、オーディオを供給する機器の電源を入れた後で、スピーカーシステムの電源を入れる手順を守ると良いでしょう。

# 使用例

Clarett+ 4Preは、多くのレコーディングおよびモニタリングアプリケーションにとって優れた選択肢となります。ここでは、代表的な接続例をいくつかご紹介します。

## 1. 小人数バンドのレコーディング



このセットアップでは、コンピュータ上の DAW ソフトウェアを使用して行うマルチトラックレコーディングの一般的な構成を示しています。

上図は、少人数バンドのライブレコーディングでのセットアップ例で、エレキギター、ベース、シンセ、2人のボーカルで構成されています。

- ギター: 本体のフロントパネルの入力部に接続します。Input 1と2のみがインストゥルメント入力として設定でき、この例では、ギターをInput 1と2に接続しています。**Focusrite Control**でInput 1と2をINSTモードに設定し、**INST LED**が点灯していることを確認してください。
- マイク: ボーカル用の2本のマイクをInput 3と4に接続します。コンデンサーマイクを用いる場合は、**48V**ボタンを押してファンタム電源を有効にします。
- シンセ: シンセからのステレオライン出力は、リアパネルの**LINE INPUTS 5**および**6**に接続されています。

必要に応じて、Headphone Output 1でレコーディングをモニターすることができます。**Focusrite**

**Control**を使用することで、好みのモニターミックスを構成することが可能です。また、もう一種類のミックスを作成してHeadphone Output 2にルーティングすることもできます。

### レイテンシーについて

デジタルオーディオシステムに関連して「レイテンシー」という用語を聞くことがよくあるかと思います。上記のようなDAWレコーディングアプリケーションの場合、レイテンシーとは、入力信号がお使いのコンピュータおよびオーディオソフトウェアを通過し、オーディオインターフェース経由で再度戻ってくるまでにかかる時間を指します。

ほとんどのレコーディングでは問題になりませんが、入力信号をモニタリングしながらレコーディングを行いたい場合は、レイテンシーが問題となる場合があります。多くのDAWトラックやソフトウェアインストゥルメント、エフェクトプラグインを使用した大規模なプロジェクトでオーバーダブを行う場合は、DAWのバッファサイズを増やす必要があります。

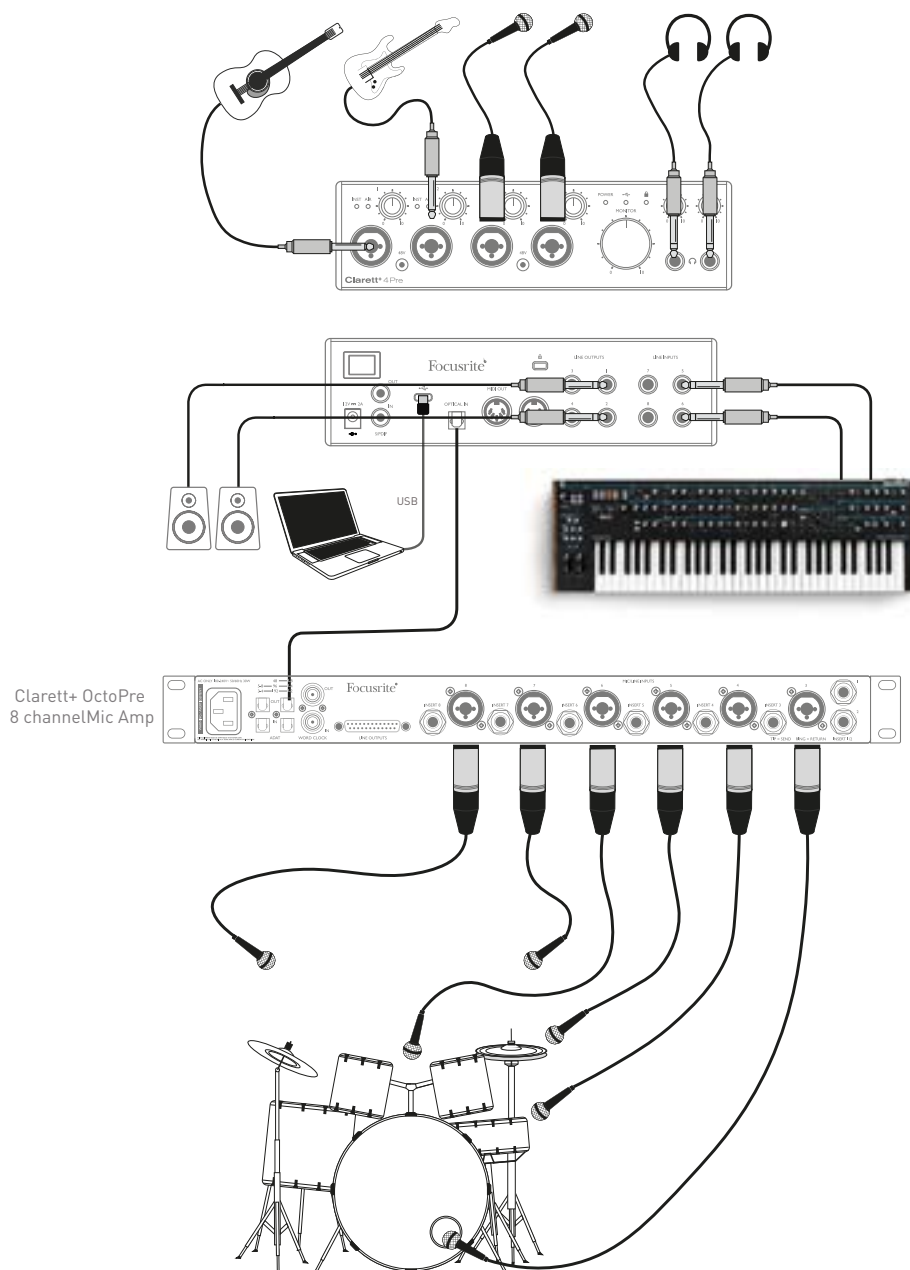
バッファサイズが低すぎると、オーディオのグリッチ（クリックやポップ）が生じたり、またはDAWで異常なCPU負荷が発生することが多々あります（多くのDAWではCPUの使用状況が確認できます）。Macでこれが生じた場合は、DAW内の設定画面でバッファサイズを高く設定でき、また、Windowsの場合は、DAWの環境設定\*からアクセスできるASIOコントロールパネルでバッファサイズを高く設定して、この問題を回避できます。

Clarett+ 4Preを**Focusrite Control**と併用すると、「ゼロレイテンシーモニタリング」が可能となり、この問題を解決できます。入力信号をClarett+ 4Preのヘッドフォン出力とライン出力に直接ルーティングできるため、コンピューターの再生中に自身の演奏をほぼゼロレイテンシー、つまり「リアルタイム」でモニターすることができます。バッファサイズが大きい場合でもモニタリングには影響せず、コンピュータへの入力信号は、この設定による影響を受けることはありません。ただし、ソフトウェアプラグインを適用したエフェクト音をヘッドフォンでリアルタイムに聞くことはできませんのでご注意ください（エフェクト音の録音は可能）。

\*一般的な呼称 - DAWによって異なる場合があります

## 2. オプティカル接続を使用して(もしくは使用せずに)ドラムキットをレコーディングする

Clarett+ 4Preは、8つのアナログ入力に加え、ADAT入力ポート (**OPTICAL IN**) を備えています。このポートでは、44.1/48 kHzのサンプルレートで8系統、88.2/96 kHzで4系統のオーディオ入力を追加できます。Clarett+ OctoPreなどのADAT出力を搭載する8チャンネルマイクプリアンプをADAT接続することで、Clarett+ 4Preの入力機能を簡単に拡張できます。下図のようにクローズマイクを設置したドラムセットの追加も可能となります。



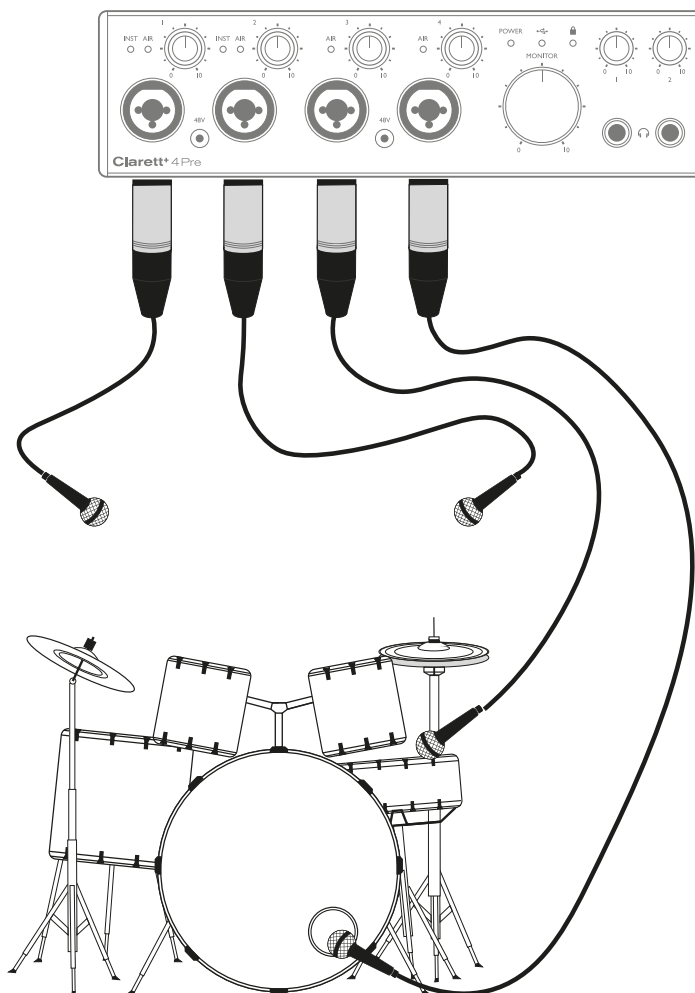
上図では、1本のTOSLINKオプティカルケーブルでClaret+ OctoPreの**OPTICAL OUT**ポートがClaret+ 4Preの**OPTICAL IN**ポートに接続されています。この接続でクリックやポップノイズの無いクリーンなオーディオ信号を伝送するには、2台の機器を同期させる必要があります。同期を行うには、**Focusrite Control**内の**Device Settings**タブで**clock Source**を**ADAT**に設定し、また、両機器のサンプルレートは同一にする必要があります。

ADAT入力信号は、他の信号と同様、**Focusrite Control**でルーティングが可能です。必要に応じてミュー



ジションに送信するヘッドフォンミックスにADAT入力信号を加えることもできます。

ADATが搭載されたマイクプリアンプをお持ちでない場合は、以下のように4つのマイクとClarett+ 4Preを使用してドラムのレコーディングを行うと良いでしょう。





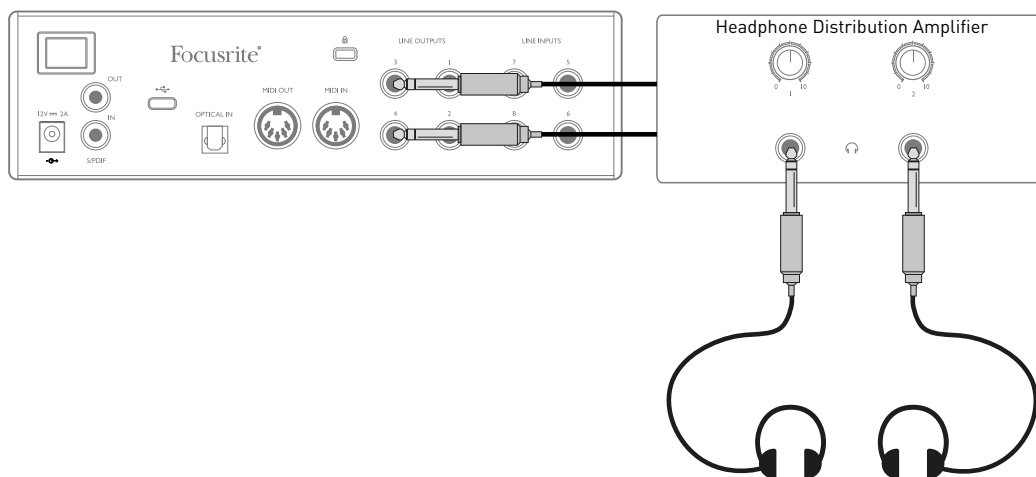
### 3. レコーディング中にモニターミックスを送信する

多くの場合、他のミュージシャンの演奏を聴きながら自身の演奏を行ったり、また、オーバーダビングする場合には、既に録音されているDAWトラックを演奏と同時にモニターできる環境が必要となってきます。

**Focusrite Control**では、モノラル/ステレオなど様々なミックスを構成し、Clarett+ 4Preのいずれかの出力にルーティングできます。これにより、録音中に各ミュージシャンがそれぞれミキシングを行うことができます。各モニターミックスは、Clarett+ 4Preに入力されている楽器信号だけでなく、クリックや録音済みのDAWトラックなどの再生音を組み合わせることも可能です。ミックスの構成や、Clarett+ 4Pre出力部へのルーティング方法については、**Focusrite Control**ユーザーガイド ([focusrite.com/downloads](https://focusrite.com/downloads)からダウンロード可能)をご参照ください。

購入時、フロントパネルの2つのヘッドフォン出力からはデフォルト設定のミックスが出力されます。ヘッドフォン 1からはLINE OUTPUT 3および4から出力されるステレオミックスと同じ信号が出力され、ヘッドフォン 2からはヘッドフォンモニタリング専用構成されたミックスが出力されます。これらのミックスは、**Focusrite Control**で自由に変更できます。ヘッドフォン 1から供給されるミックスはOutput 3/4、ヘッドフォン 2から供給されるミックスはOutput 5/6となります。

いずれか、または両方のミックスをミュージシャン用のモニターミックスとして使用でき、ヘッドフォン端子からそれぞれ出力されます。これは最も簡単な方法であり、ステレオミックスを行える利点があります。追加でヘッドフォンを使用したい場合は、別途ヘッドフォンアンプが必要です。



入力信号のモニターミックスを使用する場合は、必ず録音中のDAWチャンネルで入力信号がミュートされていることを確認してください。ミュートになっていない場合、DAW経由の遅延した信号とダイレクトモニター音の両方が出力され、1つの信号がエコーとなり、ミュージシャンは自身の音声を2度聞くことになってしまいます。

## FOCUSRITE CONTROL - 概要

**Focusrite Control**は、Clarett+ 4Preで使用するソフトウェアで、[focusrite.com/downloads](https://focusrite.com/downloads)からダウンロードすることができます。また**Focusrite Control**をWiFi経由でコントロールできるiOSアプリもApple Appストアから入手できます。

**Focusrite Control**では、自由にモニターミックスを作成したり、すべてのオーディオ信号を実際の出力にルーティングすることができます。またサンプルレートやクロックソースの設定も**Focusrite Control**内で行います。

**Focusrite Control**には専用のユーザーガイドが用意されており、ソフトウェアの全ての機能に関する操作手順が記載されています。  
[focusrite.com/downloads](https://focusrite.com/downloads)よりダウンロードが可能です。

# CLARETT+ 4PRE技術仕様

## 性能仕様

構成	
入力	18:アナログ(8)、S/PDIF(2)、ADAT(8)
出力	8:アナログ(4)、S/PDIF(2)、HP2(2)
ミキサー	完全に割り当て可能な26イン/10アウトミキサー
カスタムミックス	10(モノラル)
最大カスタムミックス入力	18(モノラル)
デジタル性能	
対応サンプルレート	44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz、176.4kHz、192kHz
マイク入力	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.03 dB 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.15 dB
ダイナミックレンジ	118 dB(最小ゲイン)
THD+N	-110 dB @ -1 dBFSおよび20 dBゲイン
ノイズ EIN	-129 dBu
最大入力レベル	18 dBu
ゲインレンジ	57dB
ライン入力1~4(可変ゲイン)	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.05 dB 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.15 dB
ダイナミックレンジ	118 dB(最小ゲイン)
THD+N	-100 dB @ -1 dBFSおよび最小ゲイン
最大入力レベル	26dBu
ゲインレンジ	57dB
ライン入力5~8(固定ゲイン)	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.05 dB 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.15 dB
ダイナミックレンジ	118dB
THD+N	-100 dB @ -1 dBFS; -105 dB @ -6 dBFS
最大入力レベル	18 dBu

楽器入力	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.04 dB 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.15 dB
ダイナミックレンジ	116dB
THD+N	-96.5 dB @ -1 dBFSおよび最小ゲイン
最大入力レベル	15dBu
ゲインレンジ	57dB
ラインおよびモニター出力	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、+/-<0.02 dB 20 Hz – 35 kHz、+/-<0.02 dB
ダイナミックレンジ	124 dB
THD+N	-106 dB
最大出力レベル (0dBFS)	18 dBu
ヘッドフォン出力	
周波数特性	20 Hz – 20 kHz、<0.06 dB; 20 Hz – 35 kHz、<0.07 dB
ダイナミックレンジ	118dB
THD+N	-104 dB
最大出力レベル	16 dBu

## 物理的特性と電気的特性

アナログ入力1~4	
コネクタ	コンボ XLR ソケット:フロントパネルのマイク/ライン/楽器 (Input 1 & 2)、マイク/ライン (Input 3 & 4)
マイク/ライン切替	自動
ライン/楽器切替 (Input 1 & 2)	<b>Focusrite Control</b> 経由
ファンタム電源	Input 1 & 2、3 & 4 用の +48V スイッチ
アナログ入力5~8	
コネクタ	4 x リアパネルのバランス1/4インチ TRS ジャック
アナログ出力	
メイン出力	4 x リアパネルのバランス1/4インチTRSジャック
ステレオヘッドフォン出力	2 x フロントパネルの1/4インチ TRS ジャック
メインモニター出力レベルコントロール	フロントパネル上
ヘッドフォンレベルコントロール	

<b>その他の入出力</b>	
ADAT入力	TOSLINKコネクタ: 44.1/48kHzの場合 8チャンネル 88.2/96kHzの場合 4チャンネル オプティカル S/PDIF 入力(選択可能)
S/PDIF 入出力	2 x RCA
データコネクタ(コンピュータ用)	1 x USB-C™ コネクタ
MIDI 入出力	2 x 5ピン DIN ソケット
<b>重量および寸法</b>	
幅 x 奥行 x 高さ	222 mm x 192 mm x 63.5 mm 8.74" x 7.56" x 2.5"
重量	1.61 kg

## トラブルシューティング

トラブルシューティングに関するお問い合わせは、Focusriteヘルプセンター[support.focusrite.com](https://support.focusrite.com)にアクセスしてください。

## 著作権表示と法定通知

Focusrite、Clarett、OctoPreは、米国およびその他の国におけるFocusrite Audio Engineering Ltd.の登録商標です。

ADATは、米国および他の国におけるinMusic Brandsの登録商標です。

iOS、iPhone、iPad、App Storeは、米国およびその他の国や地域で登録されているApple Inc.の商標です。

USB Type-C®およびUSB-C®は、USB Implementers Forumの登録商標です。

Thunderboltは、米国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標です。

2021 © Focusrite Audio Engineering Limited.無断転用禁止。